

PGF生命、 「くらしの総決算 2021」を発表

キャッシュレスが加速した2021年 皆さんのお財布には普段いくら入っていますか？
最も高いのは60代・70代男性で平均19,933円、全体の平均は？

コロナ禍で活用が進んだ話題の「サブスク」！全体では44%の人が利用し、20代では68%も
TOP3は「映画・ドラマ・アニメ」「音楽」「雑誌・マンガ・小説」、
20代男性の3人に1人が利用したものとは！？

この人のおかげで毎日が明るくなった！今年のくらしを明るくしてくれた有名人
1位は「明石家さんまさん」、2位・3位は結婚のニュースで明るい気持ちにさせてくれたあの人！

PGF生命（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社、代表取締役社長 兼 CEO 阪本 浩明）は、2021年10月26日（火）～10月28日（木）の3日間、20～79歳の男女を対象に「くらしの総決算 2021」をインターネットリサーチで実施し、2,000名の有効サンプルの集計結果を公開しました。本調査は、2015年から昨年まで6年間実施してきた「人生の満足度に関する調査」（最新版「[人生の満足度に関する調査 2020](#)」）からいくつかの質問は継続しつつ、調査内容を進化させたものです。今年の皆さんの生活全般を振り返り、そして来年に向けてより良い生活を送るためのヒントになれば幸いです。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

<調査結果ハイライト>

第1章：2021年のくらしを振り返り

- 2021年の総決算 今年1年の評価は100点満点中、何点？
80点以上の高得点層が最も多かったのは60代・70代女性、最も少なかったのは40代男性
高得点を付けた理由は「不自由なくらしの中でも、日々笑顔で過ごせた」
「健康意識が高まり生活リズムを改善できた」など
- 今年、最大の〇〇
最もうれしかったこと 1位「旅行に行けた」2位「子どもが生まれた」3位「子どもの成長を感じた」
最も残念だったこと 1位「コロナ禍が続いた」2位「旅行に行けなかった」3位「体調を崩した」
- 今年、実現した目標 1位「就職・転職」2位「健康維持・健康づくり」3位「ダイエット」
男性1位は「健康維持・健康づくり」、女性1位は「就職・転職」
- 今年1年、仕事で起こった変化 1位「給料が減った」
正社員として働く人の7人に1人が「ボーナスが減った」と回答
- コロナ禍のテレワーク普及によって副業の機会や選択肢が増加？
30代男性（有職者）の9人に1人が「本業以外（副業）の収入が増えた」と回答
- コロナ禍でも〇〇のおかげで楽しい毎日に！今年の生活満足度を上げてくれたもの
1位「動画配信サービス」2位「テレビ番組」3位「SNS」
20代男性では3人に1人が「ゲーム」、20代女性では3人に1人が「ネットショッピング」「音楽」
- コロナ禍で活用が進んだ話題の「サブスク」！全体では44%の人が利用し、20代では68%も
TOP3は「映画・ドラマ・アニメ」「音楽」「雑誌・マンガ・小説」、
20代男性の3人に1人が利用したものとは！？
- この人のおかげで毎日が明るくなった！今年のくらしを明るくしてくれた有名人
1位は「明石家さんまさん」、2位・3位は結婚のニュースで明るい気持ちにさせてくれたあの人！
二刀流の活躍に元気をもらった！スポーツ選手では「大谷翔平さん」が1位

第2章：2021年のお財布事情を振り返り

- キャッシュレスが加速した2021年 皆さんのお財布には普段いくら入っていますか？
最も高いのは60代・70代男性で平均19,933円、全体の平均は？
- お財布に入っているクレジットカードの枚数 20代の4人に1人が「0枚」、
「3枚以上」は60代・70代では2人に1人
- お財布に入っているポイントカードの枚数
「0枚」は20代では4人に1人、60代・70代では「3枚以上」が半数以上
- 今年1年、普段の買い物で最もよく利用した支払方法
「カード」は60代・70代の56%、シニアほどカード払いを利用している結果に
キャッシュレス派が多いのは？ 男女とも60代・70代が最多
- 今年、たくさんお金を使ったことTOP3 「食事」「健康・医療」「ファッション・アクセサリ」
20代男性の3人に1人が「ゲーム」、20代女性の3人に1人が「美容」と回答
- 「今年、家計を見直した」50%、20代女性では61%
家計で見直したもののTOP3は「食費」「通信費」「水道光熱費」
- 思っていたより使っていた！？
今年、予定より出費がかさんでしまったものTOP3は「食費」「医療費」「水道光熱費」
- 20代はゲームやファッションにお金をかけすぎた？
「娯楽費」は20代男性、「被服費」は20代女性で高い結果に

第3章：来年の予想と目標

- 来年、実現したい目標 「旅行」がダントツ
男性2位「就職・転職」3位「収入アップ」、女性2位「ダイエット」3位「貯蓄」
- コロナ禍収束後のリベンジ消費に意欲 来年、お金をかけたいと思うもの
1位「娯楽費」2位「食費」3位「交際費」4位「美容費」5位「被服費」
60代・70代の3人に1人が「娯楽費」と回答
- 来年は、今年より良くなると思う？
「生活」は35%、「健康状態」は24%、「マネー事情」は26%が良くなる予想
- 50代は来年の暮らしに不安？
「生活」「健康状態」「マネー事情」のすべてでポジティブ予想は20代が最多、50代が最少
- 「来年、今年より“仕事の状況”は良くなると思う」有職者の30%、20代男性では48%
- 「来年、今年より“パートナーとの関係”は良くなると思う」パートナーがいる人の38%、
20代男性では65%

■■会社概要■■

会社名	: プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
代表者名	: 代表取締役社長 兼 CEO 阪本 浩明
創業	: 2010年4月1日
本社所在地	: 東京都千代田区永田町 2-13-10
業務内容	: 生命保険業 (営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。

第1章：2021年のくらしを振り返り

■2021年の総決算 今年1年の評価は100点満点中、何点？

80点以上の高得点層が最も多かったのは60代・70代女性、最も少なかったのは40代男性

高得点を付けた理由は「不自由なくらしの中でも、日々笑顔で過ごせた」

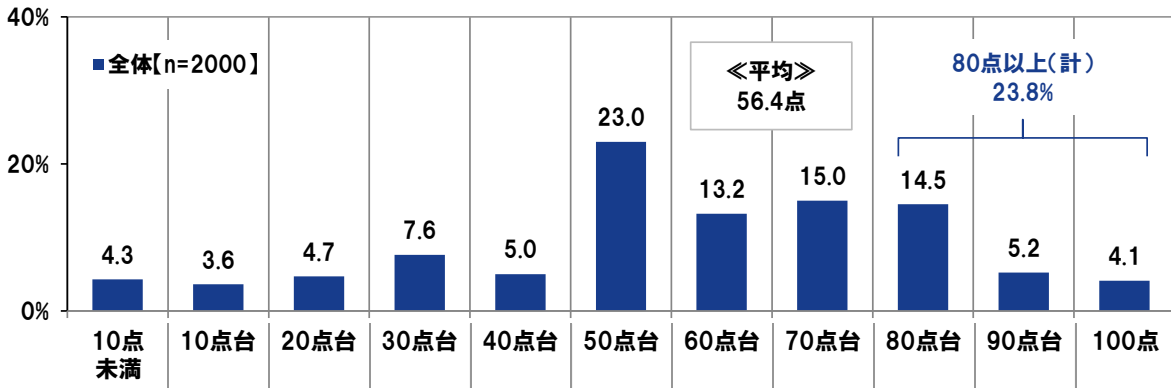
「配偶者ととともに無事に過ごすことができた」「仕事が順調で充実した日々を送ることができた」

「何事にもくじけることなく前向きに過ごせた」「健康意識が高まり生活リズムを改善できた」など

20～79歳の男女2,000名（全回答者）に、今年（2021年）のくらしについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、今年1年を100点満点で評価するとしたら何点か聞いたところ、「50点台」（23.0%）に最も多くの回答が集まったほか、「60点台」（13.2%）や「70点台」（15.0%）、「80点台」（14.5%）も全体の1割を超え、平均は56.4点でした。『80点以上』と高得点を付けた割合は23.8%となりました。

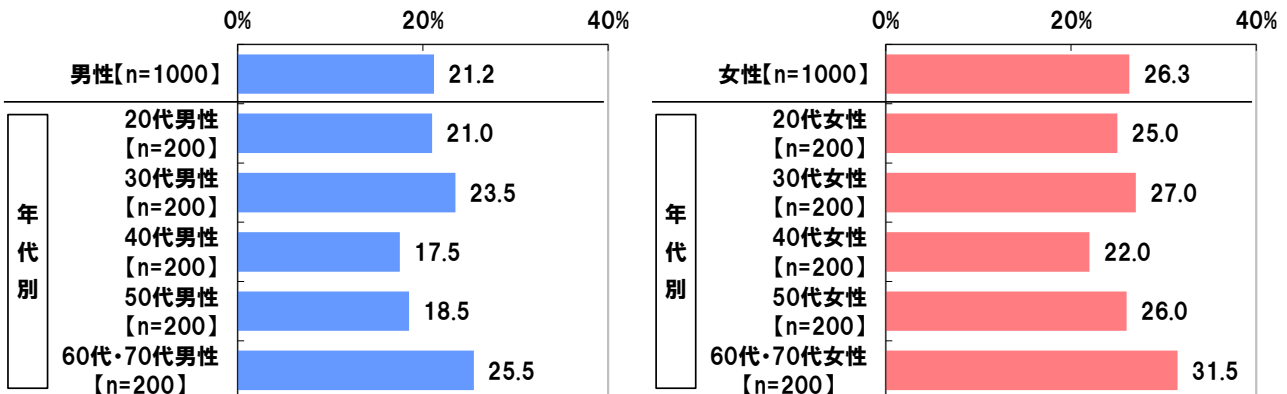
◆今年1年を100点満点で評価すると何点か（自由回答形式：数値／___点）



『80点以上』と回答した人の割合をみると、男性と比べて女性のほうが軒並み高くなりました。最も高くなったのは60代・70代女性（31.5%）、最も低くなったのは40代男性（17.5%）でした。

『80点以上』と回答した理由をみると、60代・70代女性では「不自由なくらしの中でも、日々笑顔で過ごせた」（80点）や「配偶者ととともに無事に過ごすことができた」（90点）、「仕事が順調で充実した日々を送ることができた」（95点）、「弱気になったことはあったが、何事にもくじけることなく、前向きに過ごせた」（98点）といった回答があり、40代男性では「コロナ対策をしながらしっかりと生活できたが、趣味を満喫できずストレス発散に苦労した」（80点）や「コロナに感染せず無事に過ごすことができ、仕事も順調だった」（85点）、「健康意識が高まり生活リズムを改善できた」（90点）、「コロナ禍で不便なことはあったが、なんとかやりくりできた」（95点）といった回答がありました。高得点と評価した人の中には、コロナ禍で自粛を余儀なくされたり、行動制限が課せられたりしている中でも、気持ちの持ち方や暮らし方・楽しみ方を工夫したり、健康意識を高めたりすることで、高い生活満足度を得られた人が多いのではないのでしょうか。

◆今年1年の評価で『80点以上』と回答した人の割合



■今年、最大の〇〇

最もうれしかったこと 1位「旅行に行けた」2位「子どもが生まれた」3位「子どもの成長を感じた」
最も残念だったこと 1位「コロナ禍が続いた」2位「旅行に行けなかった」3位「体調を崩した」

■今年、実現した目標 1位「就職・転職」2位「健康維持・健康づくり」3位「ダイエット」

男性1位は「健康維持・健康づくり」、女性1位は「就職・転職」

次に、全回答者（2,000名）に、今年の個人的な出来事について質問しました。

【今年、最もうれしかったこと】を聞いたところ、1位「旅行に行けた」、2位「子どもが生まれた」、3位「子どもの成長を感じた」、4位「健康でいられた」、5位「就職・転職した」となりました。新型コロナウイルス感染症の感染状況に改善がみられ、感染対策をしっかりと講じながら久しぶりの旅行を満喫できたという人が多いのではないのでしょうか。

他方、【今年、最も残念だったこと】を聞いたところ、1位「コロナ禍が続いた」、2位「旅行に行けなかった」、3位「体調を崩した・病気になった」となりました。緊急事態宣言の延長や再発出などで、普段の暮らしにおける行動が長期間制限されたことを残念に感じている人が多いようです。

◆今年、最もうれしかったこと（自由回答形式）

※上位10位までを表示

全体【n=2000】

順位	内容	名
1位	旅行に行けた	62
2位	子どもが生まれた	53
3位	子どもの成長を感じた	49
4位	健康でいられた	40
5位	就職・転職した	38
6位	仕事で成功した	36
7位	孫が生まれた	35
8位	コロナに感染しなかった	34
9位	懸賞・くじに当選した	28
10位	家族が健康だった	26

◆今年、最も残念だったこと（自由回答形式）

※上位10位までを表示

全体【n=2000】

順位	内容	名
1位	コロナ禍が続いた	136
2位	旅行に行けなかった	128
3位	体調を崩した・病気になった	92
4位	家族が亡くなった	53
5位	家族が病気になった	45
6位	収入が減った	43
7位	出かけられなかった	30
8位	友人に会えなかった	28
9位	行事・イベントが実施されなかった	26
	仕事の不調だった	26

また、【今年、実現した目標】を聞いたところ、1位「就職・転職」、2位「健康維持・健康づくり」、3位「ダイエット」、4位「貯蓄」、5位「資格取得」「旅行」となりました。コロナ禍以前から一変した厳しい経済環境下、就職・転職が高いハードルとなったものの、目標を掲げて精力的に活動し新天地を見つけられた人は少なくないようです。

男女別にみると、男性では「健康維持・健康づくり」、女性では「就職・転職」が1位でした。

◆今年、実現した目標（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体【n=2000】

順位	内容	名
1位	就職・転職	55
2位	健康維持・健康づくり	48
3位	ダイエット	39
4位	貯蓄	34
5位	資格取得	29
	旅行	29
7位	仕事の充実	28
8位	投資・資産形成	24
9位	住宅購入	15
10位	散歩・ウォーキング	14
	体調改善	14

男性【n=1000】

順位	内容	名
1位	健康維持・健康づくり	24
2位	就職・転職	22
3位	仕事の充実	16
	投資・資産形成	16
5位	貯蓄	15
6位	旅行	14
7位	ダイエット	12
8位	資格取得	11
9位	車購入	8
10位	コロナに感染しない / 趣味の充実 / 体調改善 / 収入アップ / 住宅購入	7

女性【n=1000】

順位	内容	名
1位	就職・転職	33
2位	ダイエット	27
3位	健康維持・健康づくり	24
4位	貯蓄	19
5位	資格取得	18
6位	旅行	15
7位	仕事の充実	12
8位	出産	9
	妊娠	9
10位	引っ越し / 住宅購入 / 散歩・ウォーキング / 投資・資産形成	8

- 今年1年、仕事で起こった変化 1位「給料が減った」
正社員として働く人の7人に1人が「ボーナスが減った」と回答
- コロナ禍のテレワーク普及によって副業の機会や選択肢が増加？
30代男性（有職者）の9人に1人が「本業以外（副業）の収入が増えた」と回答

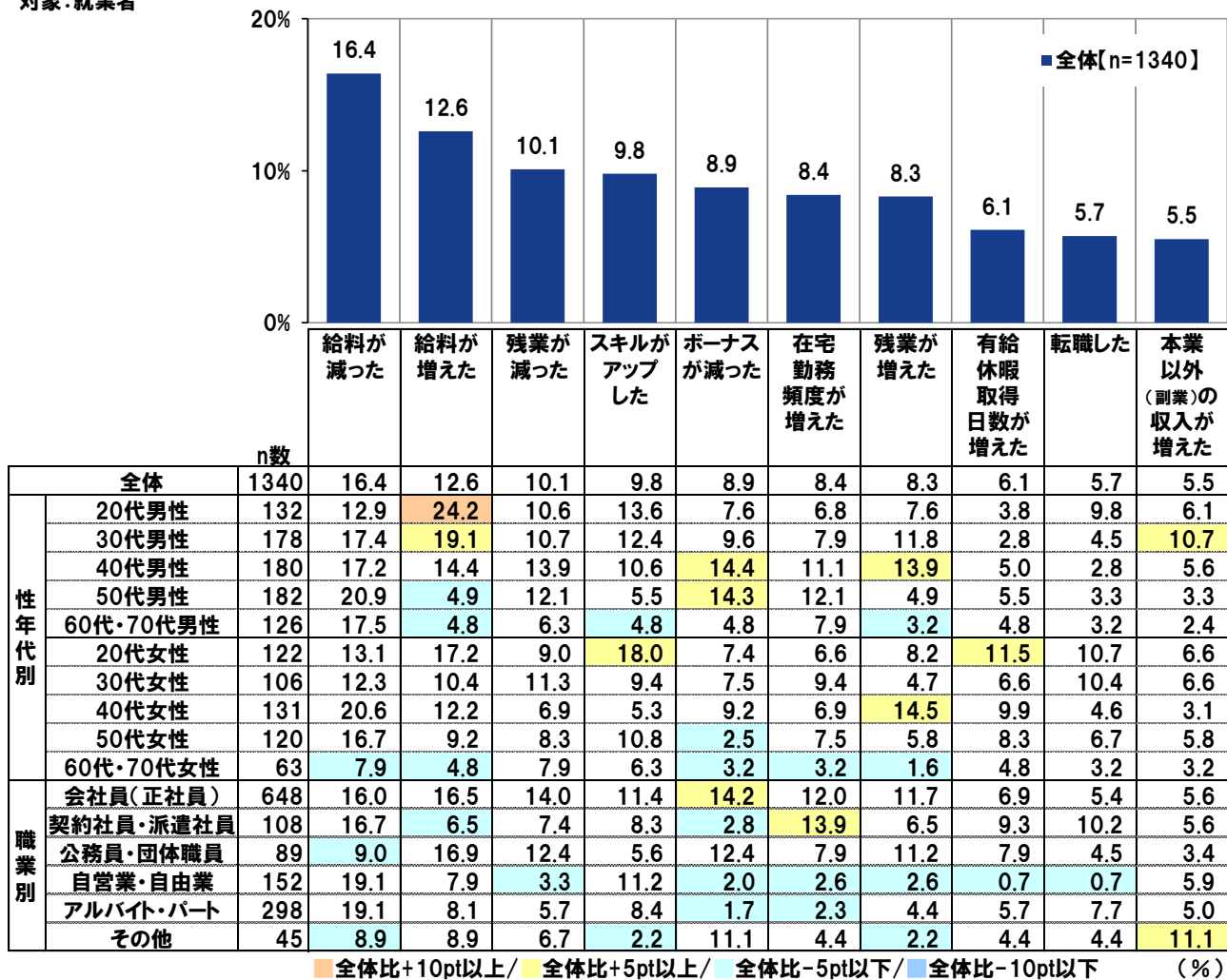
仕事ではどのような変化を実感した人が多いのでしょうか。

就業者（1,340名）に、今年1年、仕事ではどのような変化があったか聞いたところ、「給料が減った」（16.4%）が最も高くなり、「給料が増えた」（12.6%）、「残業が減った」（10.1%）、「スキルがアップした」（9.8%）、「ボーナスが減った」（8.9%）が続きました。

性年代別にみると、30代男性では「本業以外（副業）の収入が増えた」（10.7%）が他の層と比べて高くなりました。コロナ禍で普及したテレワークが、副業の機会や選択肢を増加させたり、副業への意欲を高めたのではないのでしょうか。また、20代男性・30代男性では「給料が増えた」（順に24.2%、19.1%）が他の層と比べて高くなりました。

職業別にみると、会社員（正社員）では「ボーナスが減った」（14.2%）が他の層と比べて高くなりました。勤め先の業績の落ち込みなどにより、例年と比べてボーナスの金額が下がったという人は少なくないようです。

◆今年1年、仕事ではどのような変化があったか（複数回答形式） ※上位10位までを表示
対象：就業者



■コロナ禍でも〇〇のおかげで楽しい毎日に！今年の生活満足度を上げてくれたもの

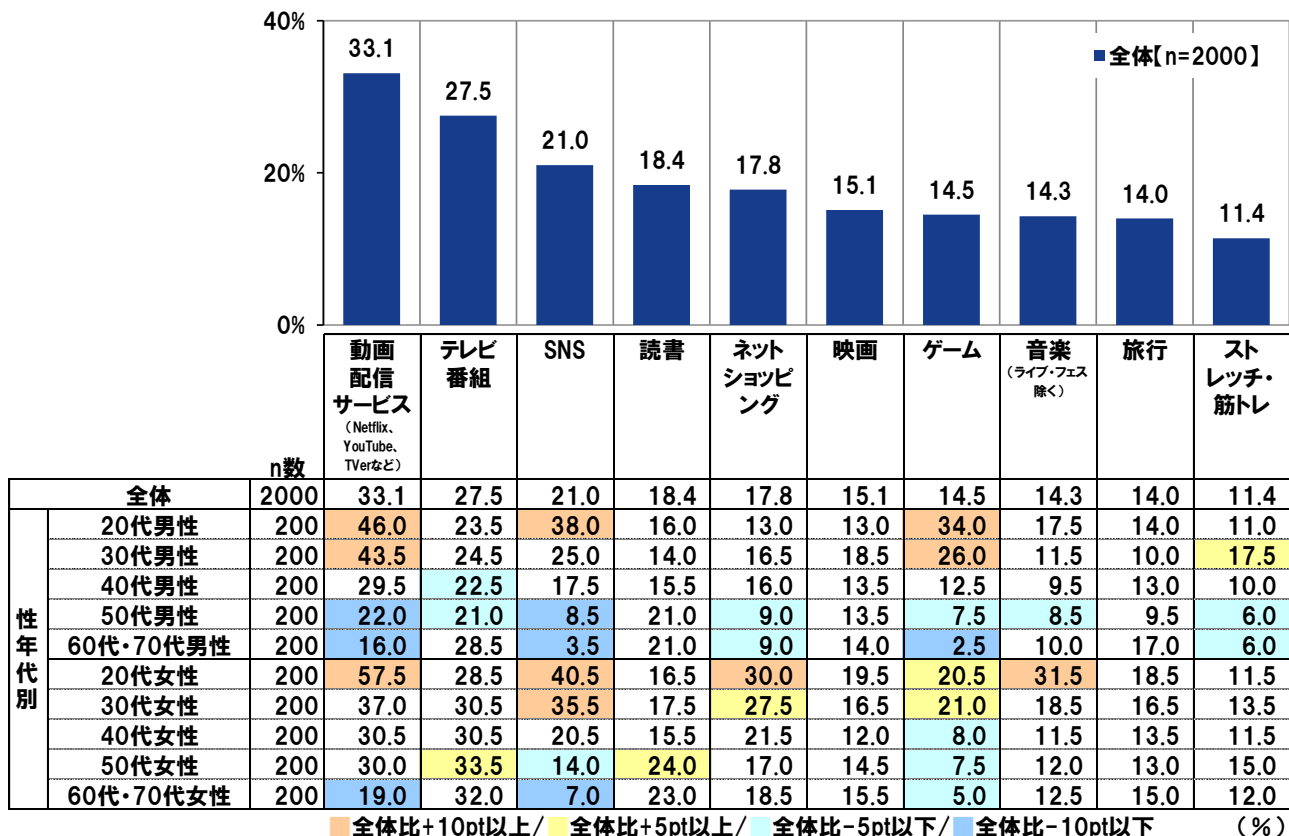
1位「動画配信サービス」2位「テレビ番組」3位「SNS」

20代男性では3人に1人が「ゲーム」、20代女性では3人に1人が「ネットショッピング」「音楽」

全回答者（2,000名）に、今年、生活の満足度を上げてくれたものを聞いたところ、「動画配信サービス（Netflix、YouTube、TVerなど）」（33.1%）が最も高くなりました。動画配信サービスを活用することで、増加した在宅時間を充実させた人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「テレビ番組」（27.5%）、「SNS」（21.0%）、「読書」（18.4%）、「ネットショッピング」（17.8%）でした。

性年代別にみると、20代男性では「ゲーム」（34.0%）、20代女性では「ネットショッピング」（30.0%）や「音楽（ライブ・フェス除く）」（31.5%）が全体と比べて高くなり、自宅でゲームや音楽、ネットショッピングを楽しむことで、コロナ禍が続く中でも生活満足度の向上を図った人が多いことがわかりました。

◆今年、生活の満足度を上げてくれたもの（複数回答形式） ※上位10位までを表示



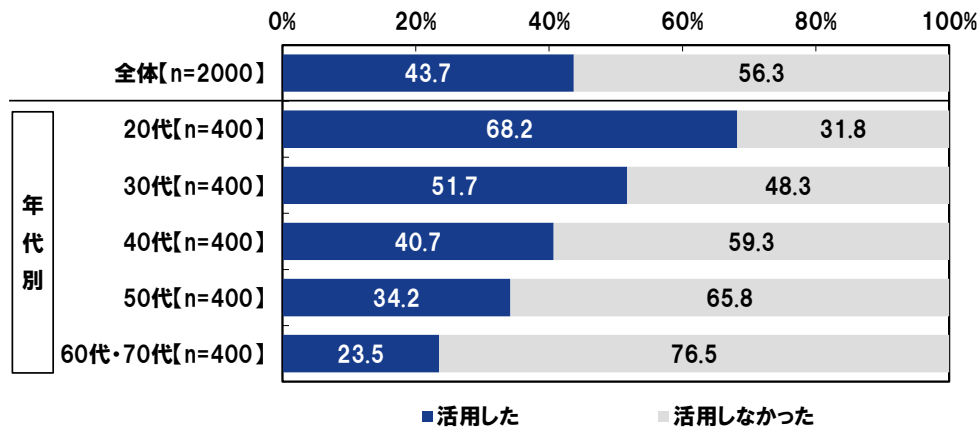
■コロナ禍で活用が進んだ話題の「サブスク」！全体では44%の人が利用し、20代では68%もTOP3は「映画・ドラマ・アニメ」「音楽」「雑誌・マンガ・小説」、20代男性の3人に1人が利用したものとは！？

続いて、サブスクリプションサービスについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、今年1年のサブスクリプションサービス（サブスク）の活用状況を聞いたところ、「活用した」は43.7%、「活用しなかった」は56.3%となりました。

年代別にみると、サブスクを活用した人の割合は、若年層ほど高くなり、20代では68.2%でした。

◆今年1年、サブスクリプションサービス(サブスク)を活用したか

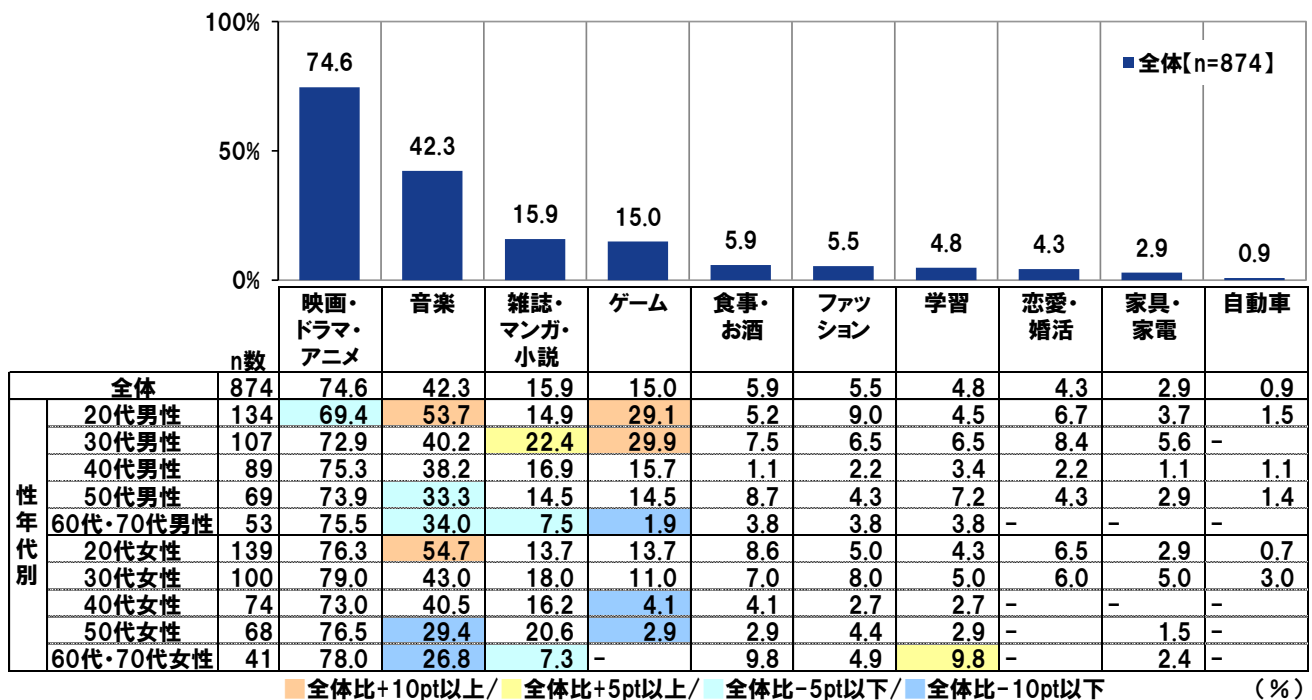


今年1年、サブスクを活用した人（874名）に、どのような種類のサービスを活用したか聞いたところ、「映画・ドラマ・アニメ」（74.6%）が突出して高くなりました。次いで高くなったのは、「音楽」（42.3%）、「雑誌・マンガ・小説」（15.9%）、「ゲーム」（15.0%）、「食事・お酒」（5.9%）でした。

性年代別にみると、20代男性・30代男性では「ゲーム」（順に29.1%、29.9%）が特に高くなりました。

◆今年1年、活用したサブスクリプションサービス(サブスク)の種類（複数回答形式） ※上位10位までを表示

対象：今年1年、サブスクリプションサービス(サブスク)を活用した人



■この人のおかげで毎日が明るくなった！今年の暮らしを明るくしてくれた有名人

1位は「明石家 さんまさん」、2位・3位は結婚のニュースで明るい気持ちにさせてくれたあの人！
二刀流の活躍に元気もらった！スポーツ選手では「大谷 翔平さん」が1位

全回答者（2,000名）に、今年の暮らしを明るくしてくれた有名人について質問しました。

【芸能人】では1位「明石家 さんまさん」、2位「有吉 弘行さん」、3位「新垣 結衣さん」、4位「フワちゃん」、5位「千鳥」となりました。

挙げた理由をみると、1位の明石家 さんまさんについては「いつも明るく元気づけてくれた」（40代男性）や「いつも笑わせてくれた」（60代女性）など、コロナ禍で暗くなりがちな日常を明るくしてくれたという実感が多く挙げられました。2位の有吉 弘行さんについては「結婚というおめでたいことで気持ちを明るくしてくれた」（50代男性）や「夏目 三久さんとの結婚報告に驚かされると同時にうれしい気持ちになった」（30代女性）、3位の新垣 結衣さんについては「結婚のニュースを聞いて幸せな気持ちになった」（20代女性）や「ドラマが現実になったような明るい話題（結婚報道）をくれた」（40代女性）など、おめでたい結婚の報道に接して明るい気持ちになったという回答が多数ありました。

男女別にみると、男性回答では「明石家 さんまさん」、女性回答では「BTS」が1位でした。

◆今年の暮らしを明るくしてくれた芸能人（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]			男性[n=1000]			女性[n=1000]		
順位	名前	名	順位	名前	名	順位	名前	名
1位	明石家 さんま	35	1位	明石家 さんま	18	1位	BTS	18
2位	有吉 弘行	30	2位	有吉 弘行	14	2位	明石家 さんま	17
3位	新垣 結衣	26	3位	新垣 結衣	13	3位	有吉 弘行	16
4位	フワちゃん	23	4位	ダウンタウン	11	4位	フワちゃん	15
5位	千鳥	22	4位	千鳥	11	5位	サンドウィッチマン	13
6位	BTS	19	6位	タモリ	8	5位	新垣 結衣	13
6位	サンドウィッチマン	19	6位	フワちゃん	8	7位	千鳥	11
8位	ダウンタウン	14	6位	大泉 洋	8	8位	Snow Man	10
9位	星野 源	13	9位	サンドウィッチマン	6	9位	星野 源	9
10位	嵐	12	9位	浜辺 美波	6	9位	嵐	9

【スポーツ選手】では「大谷 翔平さん」がダントツとなり、2位「池江 璃花子さん」、3位「水谷 隼さん」、4位「松山 英樹さん」、5位「伊藤 美誠さん」となりました。

挙げた理由をみると、1位の大谷 翔平さんについては「メジャーリーグで二刀流選手として様々な記録を打ち立てた」（50代女性）や「二刀流での大活躍に感動した」（70代男性）、「メジャーリーグでの活躍のニュースを聞いたときに勇気もらった」（40代男性）など、メジャーリーグという大舞台で活躍する姿を称賛する回答が多数みられました。球史に残る活躍に元気もらった人は多いのではないのでしょうか。2位の池江 璃花子さんについては「どんなときも諦めず目標に向かうことの素晴らしさを見せてもらった」（40代女性）や「病気を克服してオリンピックに出た姿を見て勇気もらった」（60代女性）など、病気を克服した姿への感動を表す回答があり、3位の水谷 隼さんについては「東京オリンピックで金メダルをとった」（40代男性）や「東京オリンピックでの活躍を見て元気もらった」（50代女性）などオリンピックでの偉業達成を称える回答がありました。

◆今年の暮らしを明るくしてくれたスポーツ選手（自由回答形式）※上位10位までを表示

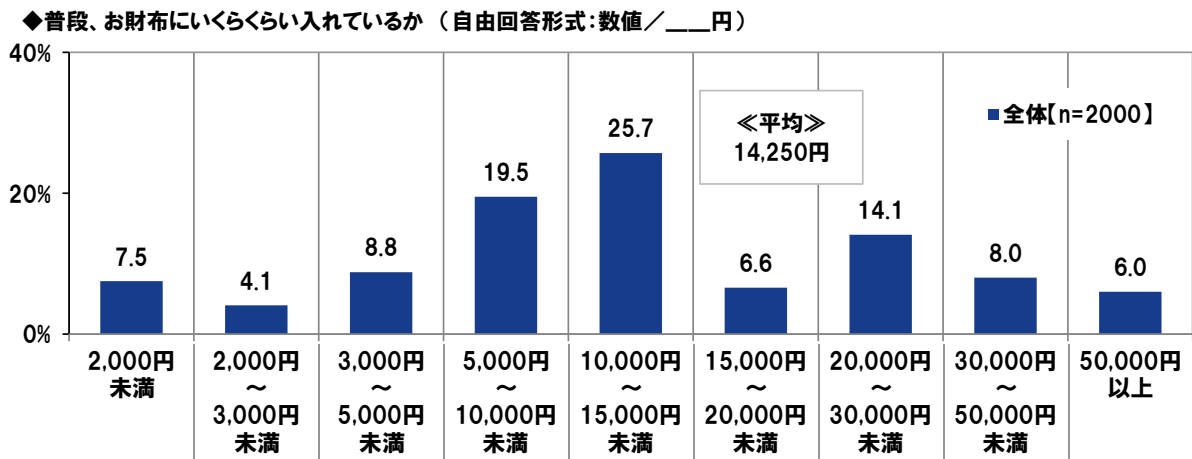
全体[n=2000]			男性[n=1000]			女性[n=1000]		
順位	名前	名	順位	名前	名	順位	名前	名
1位	大谷 翔平	704	1位	大谷 翔平	406	1位	大谷 翔平	298
2位	池江 璃花子	27	2位	松山 英樹	11	2位	水谷 隼	17
3位	水谷 隼	26	2位	池江 璃花子	11	3位	池江 璃花子	16
4位	松山 英樹	20	4位	水谷 隼	9	4位	伊藤 美誠	11
5位	伊藤 美誠	16	5位	佐藤 輝明	8	5位	橋本 大輝	10
6位	橋本 大輝	13	6位	ウルフ・アロン	6	6位	松山 英樹	9
6位	佐藤 輝明	13	7位	伊藤 美誠	5	7位	羽生 結弦	6
8位	ウルフ・アロン	8	8位	斎藤 佑樹	4	8位	佐藤 輝明	5
9位	阿部 詩	7	8位	大坂 なおみ	4	8位	石川 祐希	5
9位	羽生 結弦	7	10位	阿部 詩 / 久保 建英 / 橋本 大輝 / 山本 由伸	3	10位	阿部 詩	4
						10位	上野 由岐子	4

第2章：2021年のお財布事情を振り返り

■キャッシュレスが加速した2021年 皆さんのお財布には普段いくら入っていますか？
最も高いのは60代・70代男性で平均19,933円、全体の平均は？

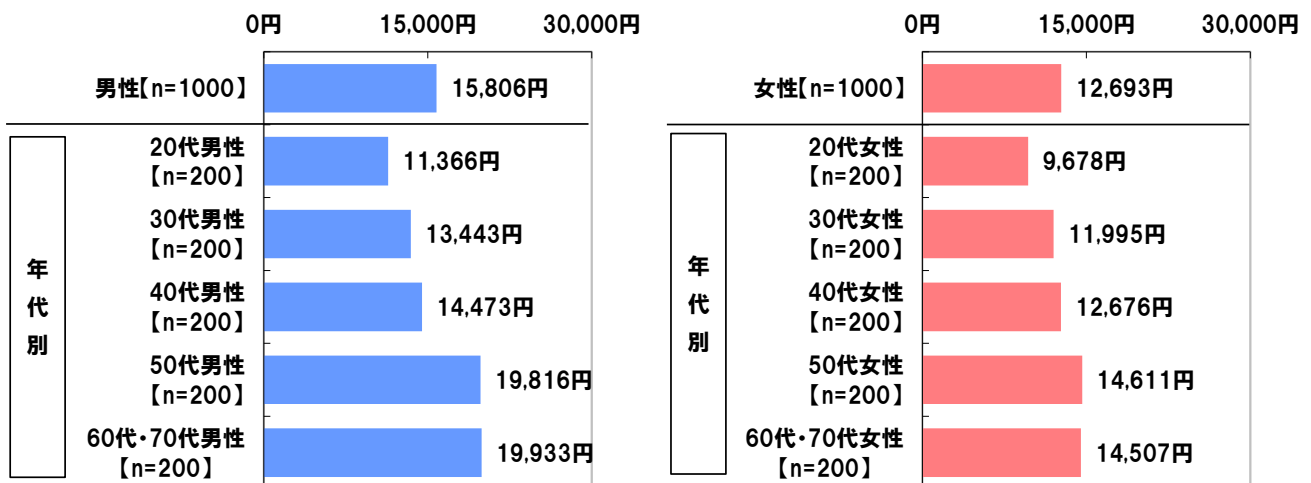
今年1年のお財布事情について質問しました。

全回答者（2,000名）に、普段、お財布にいくらくらい入れているか聞いたところ、「10,000円～15,000円未満」（25.7%）に最も多くの回答が集まり、平均は14,250円でした。



性年代別にみると、普段お財布に入れている金額の平均は、60代・70代男性（19,933円）が最も高くなり、50代男性（19,816円）、50代女性（14,611円）が続きました。

◆普段、お財布に入れている金額の平均



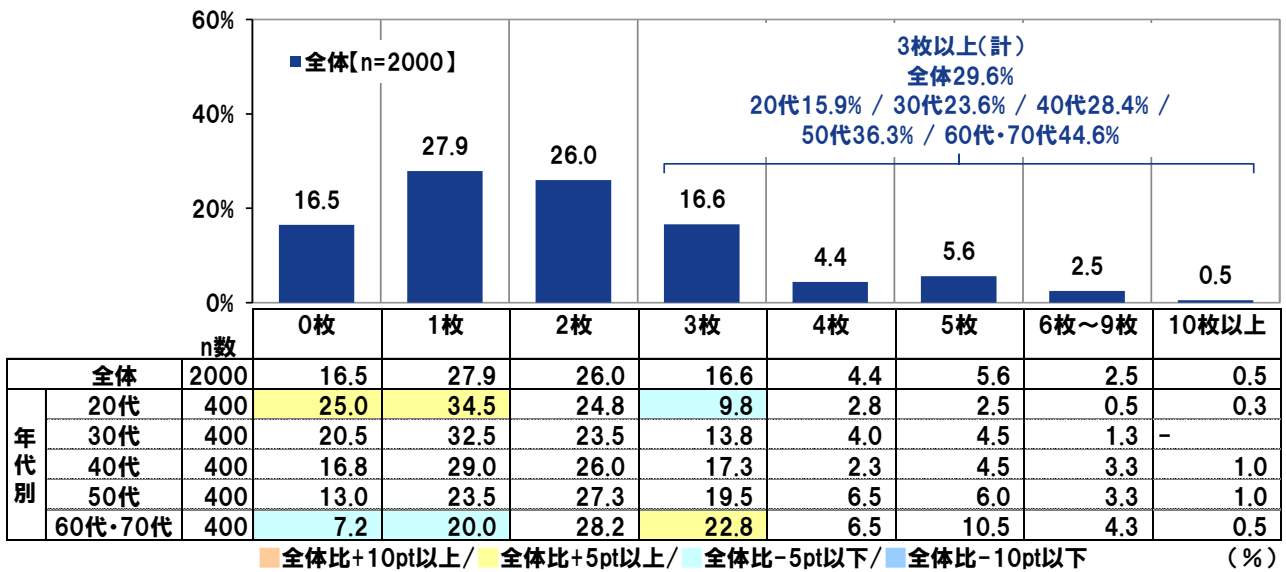
- お財布に入っているクレジットカードの枚数 20代の4人に1人が「0枚」、
「3枚以上」は60代・70代では2人に1人
- お財布に入っているポイントカードの枚数
「0枚」は20代では4人に1人、60代・70代では「3枚以上」が半数以上

クレジットカードやポイントカードをどのくらいお財布に入れている人が多いのでしょうか。

全回答者（2,000名）に、お財布にクレジットカードを何枚入れているか聞いたところ、「1枚」（27.9%）や「2枚」（26.0%）に多くの回答が集まり、『3枚以上』は29.6%となりました。また、「0枚」は16.5%でした。

年代別にみると、「0枚」と回答した人の割合は若年層ほど高くなり、最も高い20代では25.0%でした。他方、『3枚以上』は60代・70代では44.6%となったのに対し、20代では15.9%にとどまり、世代間で大きな差がみられました。

◆お財布(バスケース等含む)にクレジットカードを何枚入れているか（自由回答形式:数値/___枚）

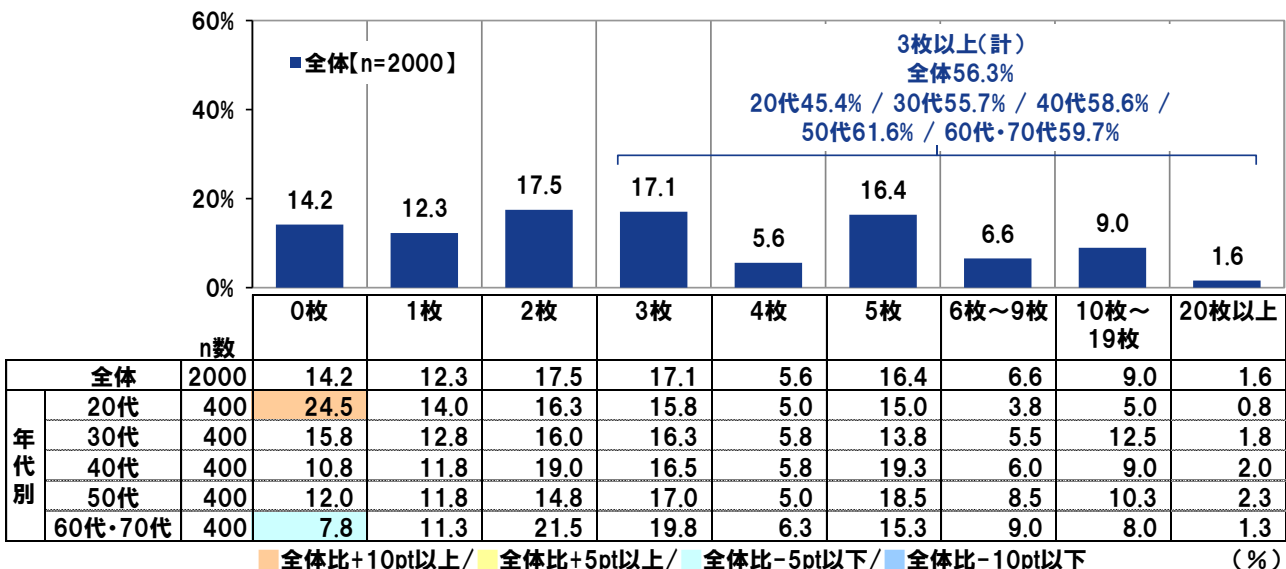


お財布にポイントカードを何枚入れているか聞いたところ、「2枚」（17.5%）や「3枚」（17.1%）、「5枚」（16.4%）などに回答が分かれた一方、「0枚」は14.2%でした。

年代別にみると、「0枚」と回答した人の割合は若年層ほど高くなり、最も高い20代では24.5%となったのに対し、60代・70代では7.8%にとどまりました。他方、60代・70代では『3枚以上』は59.7%でした。

最近では、スマートフォンのアプリでポイントカードを管理できるようになってきたこともあり、若年層には、ポイントカードを持たずに生活を送っている人が少なくないようです。

◆お財布(バスケース等含む)にポイントカードを何枚入れているか（自由回答形式:数値/___枚）



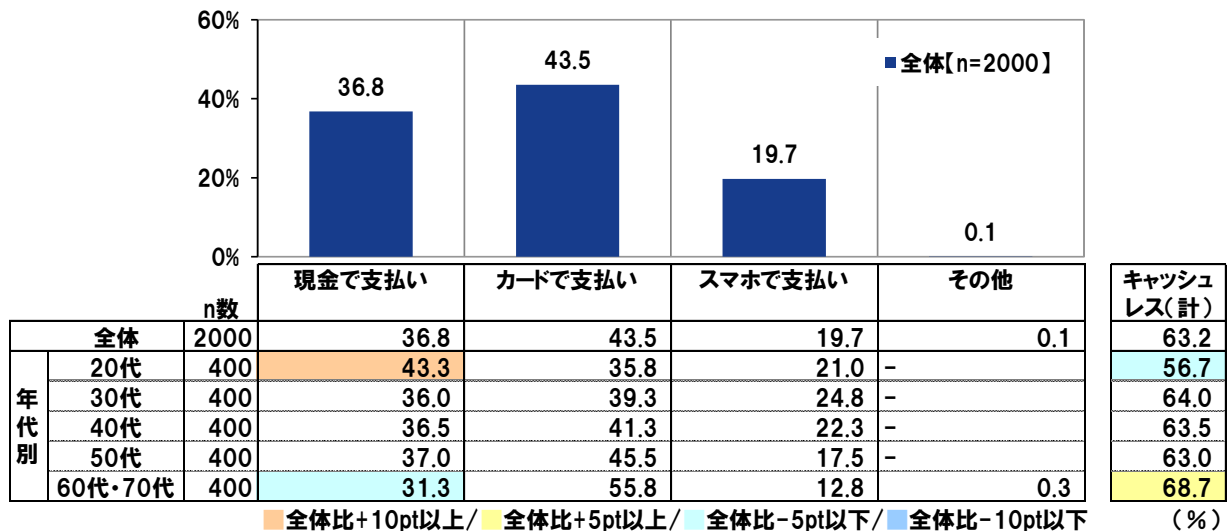
■今年1年、普段の買い物で最もよく利用した支払方法

「カード」は60代・70代の56%、シニアほどカード払いを利用している結果にキャッシュレス派が多いのは？ 男女とも60代・70代が最多

全回答者（2,000名）に、今年1年、普段の買い物で最もよく利用した支払方法を聞いたところ、「現金で支払い」は36.8%となりました。「カードで支払い」は43.5%、「スマホで支払い」は19.7%となり、『キャッシュレス』（「現金で支払い」以外を回答した人の割合）は63.2%と、キャッシュレス利用の拡大がうかがえる結果となりました。

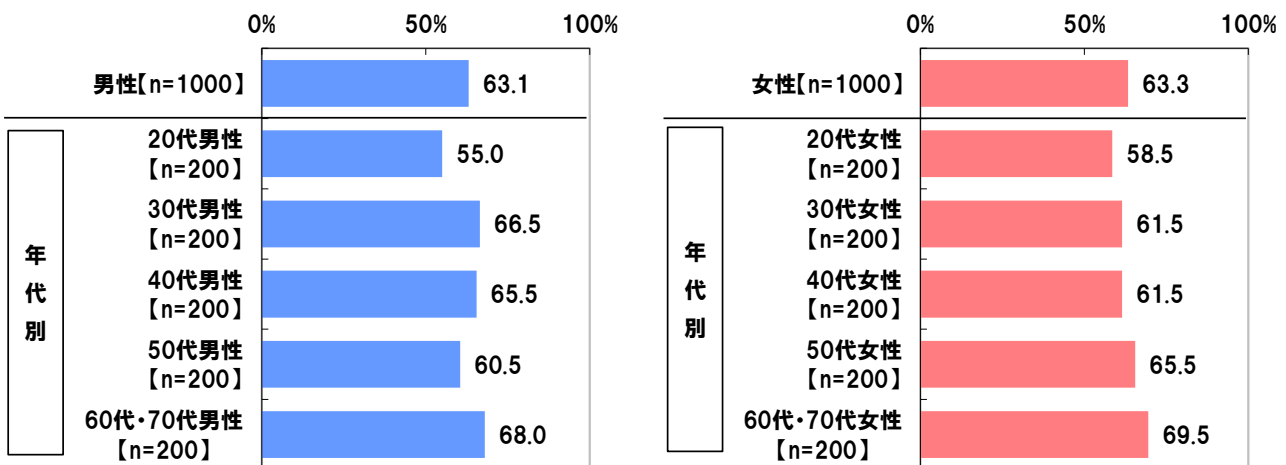
年代別にみると、「カードで支払い」と回答した人の割合は上の年代ほど高くなり、最も高くなった60代・70代では55.8%、最も低くなった20代では35.8%と、20.0ポイントの差が開きました。

◆今年1年、普段の買い物で最もよく利用した支払方法（単一回答形式）



性年代別にみると、『キャッシュレス』の割合は、男性では60代・70代（68.0%）、女性でも60代・70代（69.5%）が最も高くなりました。

◆普段の買い物で『キャッシュレス』を最もよく利用した人の割合



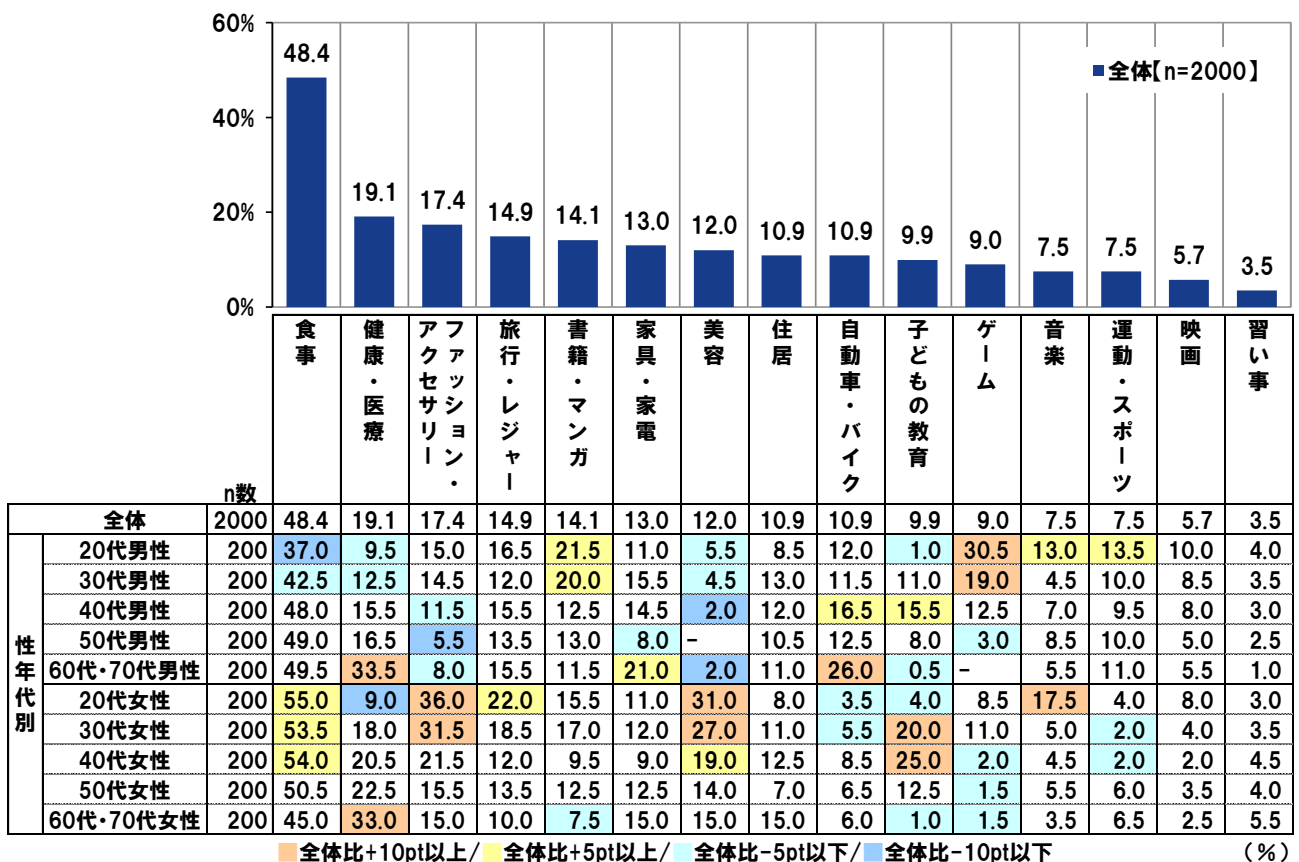
■今年、たくさんお金を使ったこと TOP3 「食事」「健康・医療」「ファッション・アクセサリ」
20代男性の3人に1人が「ゲーム」、20代女性の3人に1人が「美容」と回答

続いて、今年1年の消費・支出状況について質問しました。

全回答者（2,000名）に、今年、何にたくさんお金を使ったか聞いたところ、「食事」（48.4%）がダントツでした。フードデリバリーやテイクアウト、お取り寄せグルメの利用などにお金を使った人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「健康・医療」（19.1%）、「ファッション・アクセサリ」（17.4%）、「旅行・レジャー」（14.9%）、「書籍・マンガ」（14.1%）でした。

性年代別にみると、20代男性では「ゲーム」（30.5%）が多かったのに対して、20代女性では「ファッション・アクセサリ」（36.0%）や「美容」（31.0%）が多くなっており、コロナ禍での楽しみ方に男女で違いがみられました。また、40代女性では「子どもの教育」（25.0%）、60代・70代男性と60代・70代女性では「健康・医療」（順に33.5%、33.0%）が全体と比べて高くなりました。

◆今年、何にたくさんお金を使ったか（複数回答形式） ※上位15位までを表示

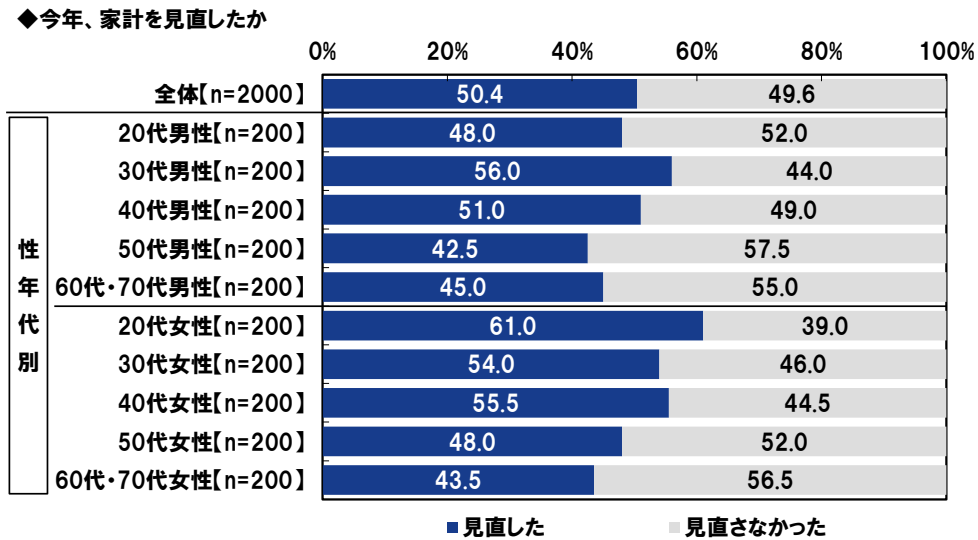


■全体比+10pt以上/■全体比+5pt以上/■全体比-5pt以下/■全体比-10pt以下 (%)

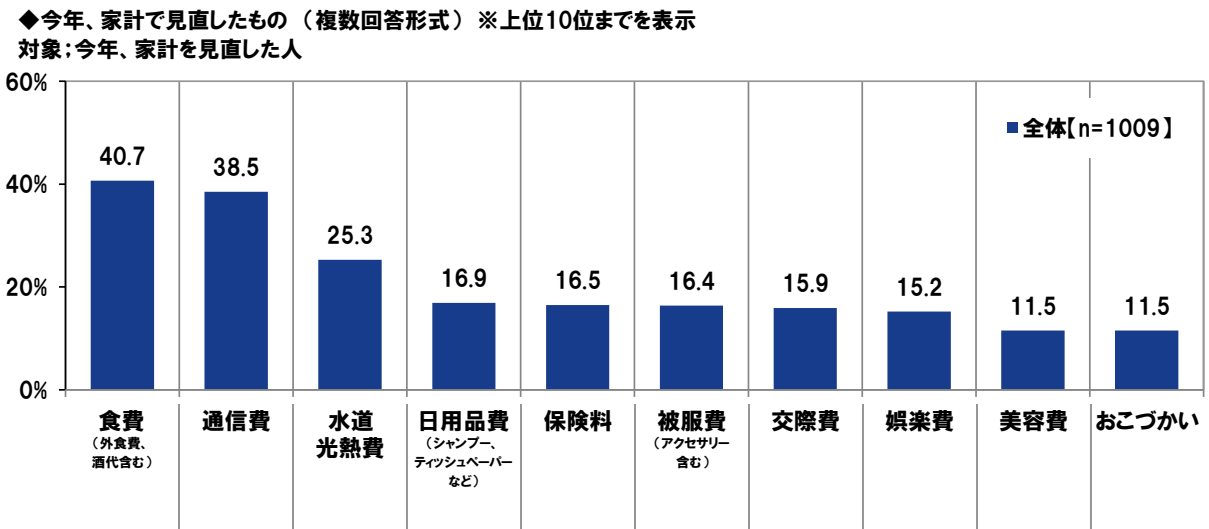
■「今年、家計を見直した」50%、20代女性では61%
 家計で見直したもののTOP3は「食費」「通信費」「水道光熱費」

全回答者（2,000名）に、今年、家計を見直したか聞いたところ、「見直した」は50.4%、「見直さなかった」は49.6%と、両者が拮抗する結果となりました。

性年代別にみると、家計を見直した人の割合は、20代女性（61.0%）で最も高くなり、30代男性（56.0%）と40代男性（51.0%）、30代女性（54.0%）、40代女性（55.5%）では半数を超えました。



今年、家計を見直した人（1,009名）に、何を見直したか聞いたところ、「食費（外食費、酒代含む）」（40.7%）が最も高くなりました。コロナ禍の在宅時間増加に伴い自宅での食事が増えたため、食費の無駄を点検し支出内容を見直した人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「通信費」（38.5%）、「水道光熱費」（25.3%）でした。



■思っていたより使っていた！？

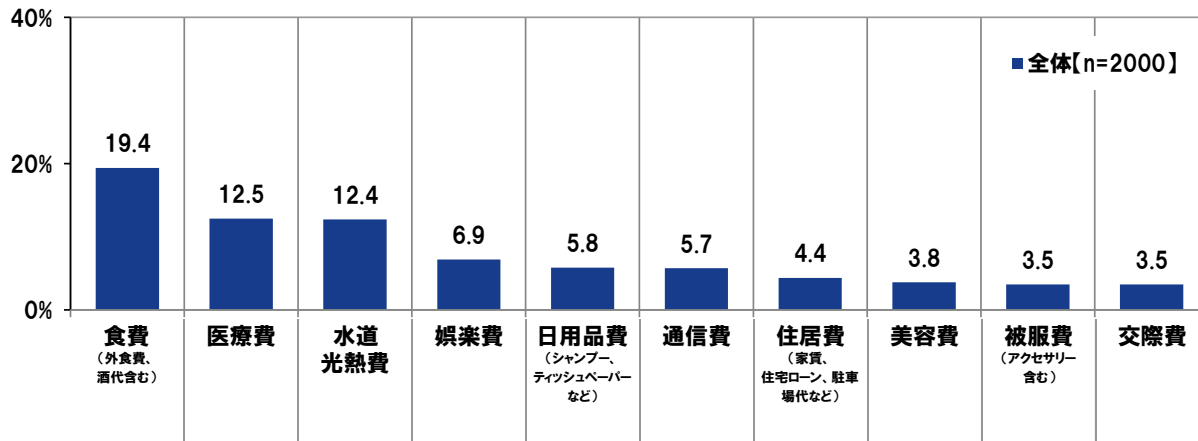
今年、予定より出費がかさんでしまったもの TOP3 は「食費」「医療費」「水道光熱費」

■20代はゲームやファッションにお金をかけすぎた？

「娯楽費」は20代男性、「被服費」は20代女性で高い結果に

また、全回答者（2,000名）に、今年、予定より出費がかさんでしまったものを聞いたところ、「食費（外食費、酒代含む）」（19.4%）が最も高くなり、「医療費」（12.5%）、「水道光熱費」（12.4%）、「娯楽費」（6.9%）、「日用品費（シャンプー、ティッシュペーパーなど）」（5.8%）が続きました。

◆今年、予定より出費がかさんでしまったもの（複数回答形式）※上位10位までを表示



性年代別にみると、多くの層で「食費」が1位となったのに対し、50代男性では「水道光熱費」が1位、60代・70代では男女とも「医療費」が1位となりました。また、20代では男女とも「娯楽費」が2位となったほか、20代女性ではコロナ禍においても「被服費」が4位とTOP5にランクインしました。20代には、ゲームやエンタメ、ファッションなどに、思っていた以上にお金をかけてしまったという人が多いようです。

◆【性年代別】今年、予定より出費がかさんでしまったもの（複数回答形式）※上位5位までを表示

20代男性[n=200]			30代男性[n=200]			40代男性[n=200]			50代男性[n=200]			60代・70代男性[n=200]		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1位	食費	12.5	1位	食費	17.5	1位	食費	23.0	1位	水道光熱費	15.0	1位	医療費	20.5
2位	娯楽費	11.5	2位	水道光熱費	13.0	2位	水道光熱費	16.0	2位	食費	13.5	2位	食費	13.0
3位	水道光熱費	9.0	3位	娯楽費	11.0	3位	医療費	9.0	3位	医療費	10.0	3位	水道光熱費	10.5
4位	通信費	7.5	4位	医療費	7.5	4位	娯楽費	6.5	4位	通信費	6.0	4位	通信費	9.5
5位	交際費	6.5	5位	住居費	6.0	4位	日用品費	6.5	5位	娯楽費	3.5	5位	交際費	3.5
										日用品費	3.5			

20代女性[n=200]			30代女性[n=200]			40代女性[n=200]			50代女性[n=200]			60代・70代女性[n=200]		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1位	食費	18.0	1位	食費	27.5	1位	食費	29.0	1位	食費	22.5	1位	医療費	19.0
2位	娯楽費	14.0	2位	医療費	15.0	2位	水道光熱費	14.0	2位	医療費	12.5	2位	食費	17.0
3位	医療費	13.0	3位	水道光熱費	14.5	3位	医療費	13.5	3位	水道光熱費	10.0	3位	水道光熱費	15.0
4位	被服費	10.0	4位	娯楽費	10.0	4位	日用品費	7.0	4位	日用品費	7.5	4位	通信費	7.5
5位	日用品費	9.0	5位	美容費	9.0	5位	通信費	6.5	5位	住居費	4.0	5位	保険料	5.5
	住居費	9.0					美容費	6.5		教育費	4.0			

第3章：来年の予想と目標

■ 来年、実現したい目標 「旅行」がダントツ

男性2位「就職・転職」3位「収入アップ」、女性2位「ダイエット」3位「貯蓄」

■ コロナ禍収束後のリベンジ消費に意欲 来年、お金をかけたいと思うもの

1位「娯楽費」2位「食費」3位「交際費」4位「美容費」5位「被服費」

60代・70代の3人に1人が「娯楽費」と回答

来年の目標や予想について質問しました。

全回答者（2,000名）に、来年、実現したい目標を聞いたところ、「旅行」がダントツでした。来年は、コロナ禍で溜まったストレスの発散や、家族や友人との思い出づくりなどのために旅行をしたいと考えている人が多いのではないのでしょうか。次いで、2位「就職・転職」、3位「ダイエット」、4位「貯蓄」、5位「健康維持・健康づくり」となりました。

男女別にみると、男女とも「旅行」が1位となり、男性では2位「就職・転職」、3位「収入アップ」、女性では2位「ダイエット」、3位「貯蓄」となりました。

◆ 来年、実現したい目標（自由回答形式） ※上位10位までを表示

全体【n=2000】

男性【n=1000】

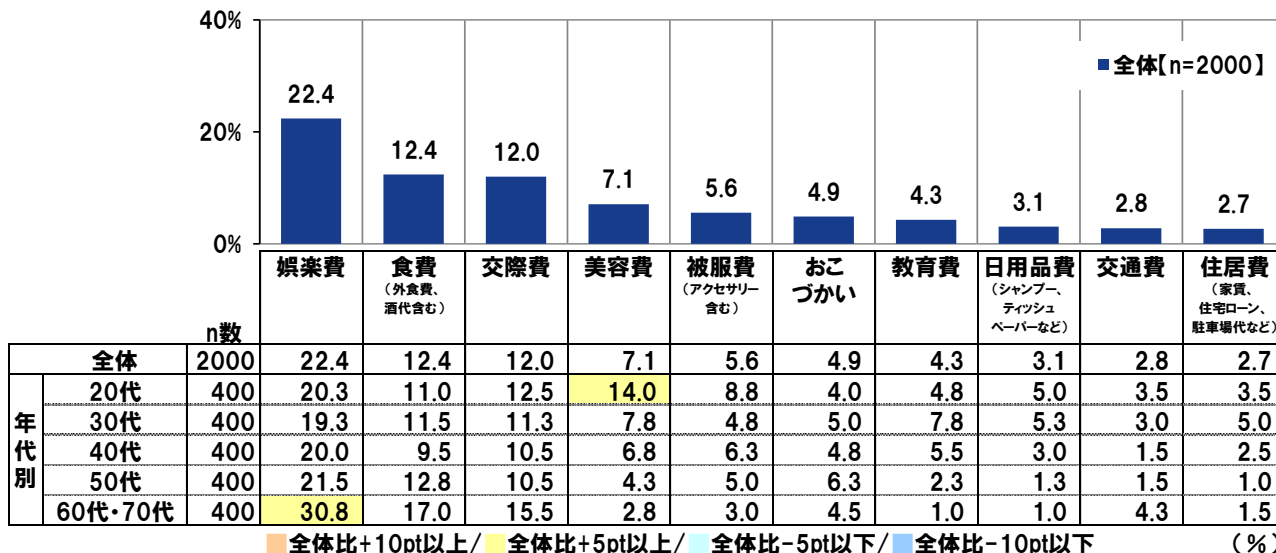
女性【n=1000】

順位	目標	名	順位	目標	名	順位	目標	名
1位	旅行	206	1位	旅行	91	1位	旅行	115
2位	就職・転職	81	2位	就職・転職	33	2位	ダイエット	52
3位	ダイエット	71	3位	収入アップ	30	3位	貯蓄	50
4位	貯蓄	70	4位	健康維持・健康づくり	29	4位	就職・転職	48
5位	健康維持・健康づくり	58	5位	投資・資産形成	26	5位	資格取得	32
6位	資格取得	55	6位	仕事の充実	24	6位	健康維持・健康づくり	29
7位	仕事の充実	43	7位	資格取得	23	7位	仕事の充実	19
8位	収入アップ	40	8位	貯蓄	20	8位	結婚	17
9位	投資・資産形成	33	9位	ダイエット	19	9位	趣味の充実	13
10位	体調改善	28	10位	体調改善	15		体調改善	13

また、来年、お金をかけたいと思うものを聞いたところ、「娯楽費」（22.4%）が最も高くなりました。コロナ禍で趣味やレジャーを十分に楽しむことができず我慢をしてきた反動から、“リベンジ消費”として来年は娯楽にお金をかけたいという人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「食費（外食費、酒代含む）」（12.4%）、「交際費」（12.0%）、「美容費」（7.1%）、「被服費（アクセサリ含む）」（5.6%）でした。

年代別にみると、60代・70代では「娯楽費」（30.8%）が全体と比べて高くなりました。

◆ 来年、お金をかけたいと思うもの（複数回答形式） ※上位10位までを表示



■ 来年は、今年より良くなると思う？

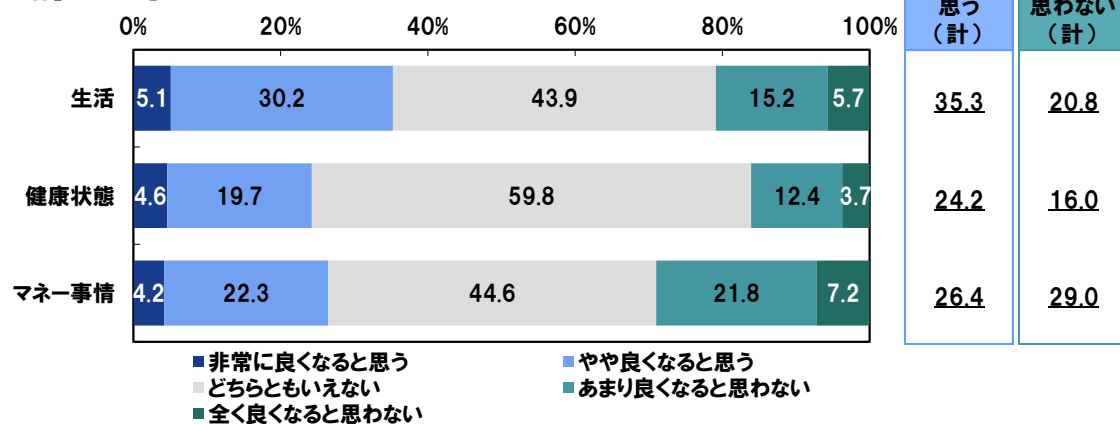
「生活」は35%、「健康状態」は24%、「マネー事情」は26%が良くなると予想

■ 50代は来年の暮らしに不安？

「生活」「健康状態」「マネー事情」のすべてでポジティブ予想は20代が最多、50代が最少

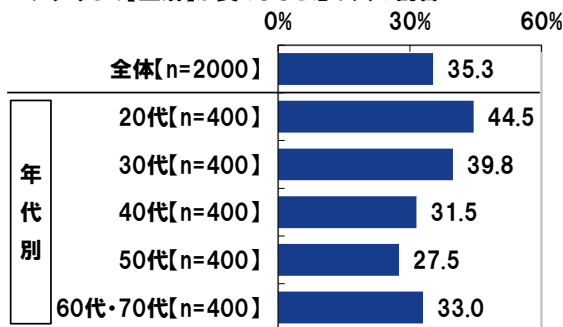
全回答者（2,000名）に、自身の生活や健康状態、マネー事情について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか聞いたところ、【生活】では「非常に良くなると思う」が5.1%、「やや良くなると思う」が30.2%で、合計した『良くなると思う』は35.3%、「全く良くなると思わない」が5.7%、「あまり良くなると思わない」が15.2%で、合計した『良くなると思わない』は20.8%となりました。また、【健康状態】では『良くなると思う』は24.2%、『良くなると思わない』は16.0%、【マネー事情（お金の使い方・貯め方など）】では『良くなると思う』は26.4%、『良くなると思わない』は29.0%となりました。【生活】と【健康状態】では良くなることを予想している人のほうが多くなったのに対し、【マネー事情】では良くなると思わないと予想している人のほうが多い結果となりました。

◆ 来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか（各単一回答形式）
全体[n=2000]

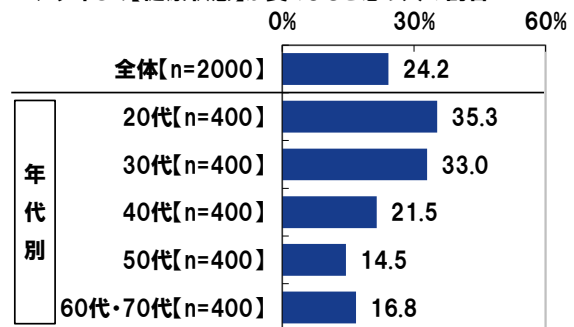


年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、【生活】・【健康状態】・【マネー事情】のいずれにおいても20代（順に44.5%、35.3%、38.3%）が最も高くなったのに対し、50代（順に27.5%、14.5%、17.8%）が最も低くなりました。年代によって来年の見通しに大きな意識差があるようです。

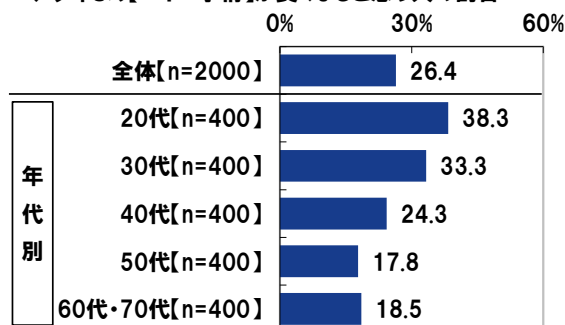
◆ 今年より【生活】が良くなると思う人の割合



◆ 今年より【健康状態】が良くなると思う人の割合



◆ 今年より【マネー事情】が良くなると思う人の割合

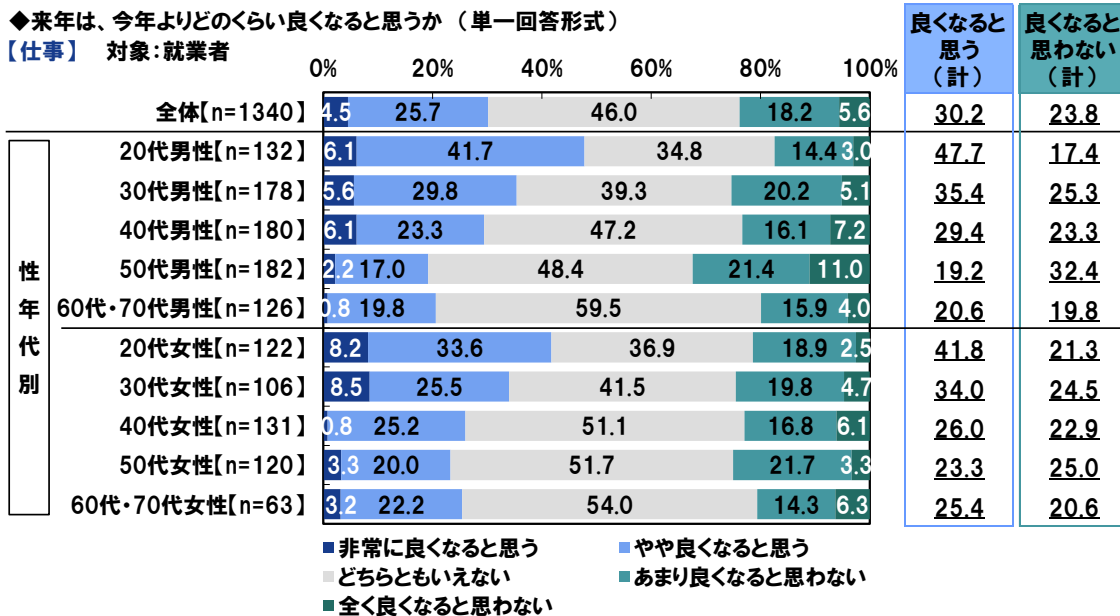


- 「来年、今年より“仕事の状況”は良くなると思う」有職者の30%、20代男性では48%
- 「来年、今年より“パートナーとの関係”は良くなると思う」パートナーがいる人の38%、20代男性では65%

仕事やパートナーとの関係についても来年の予想を聞きました。

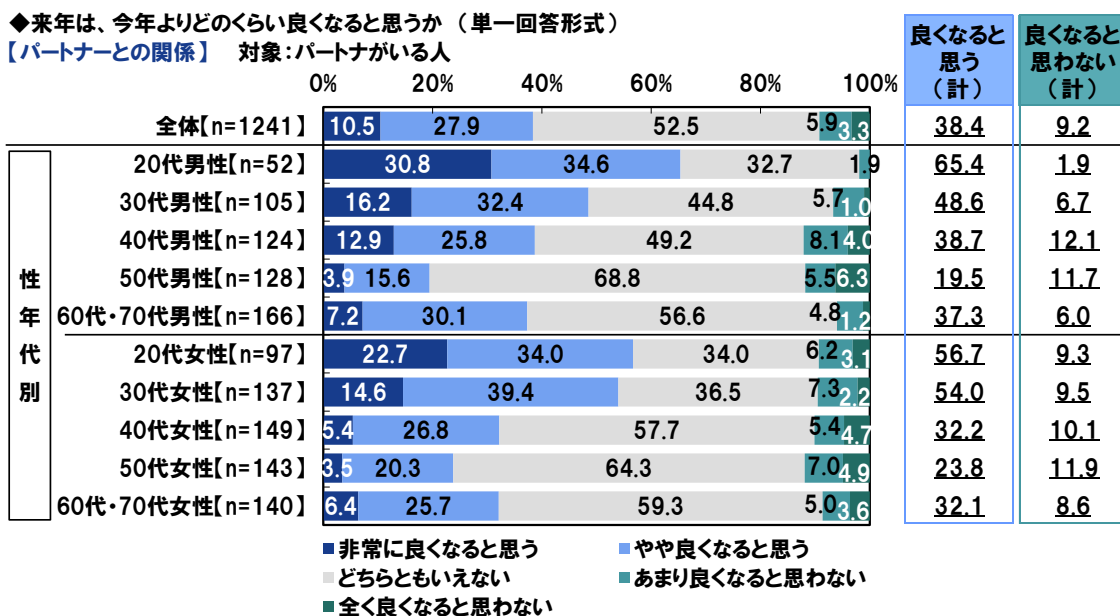
就業者（1,340名）に、自身の仕事について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか聞いたところ、『良くなると思う』が30.2%と、『良くなると思わない』の23.8%を上回る結果となりました。

性年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、20代男性（47.7%）が最も高く、50代男性（19.2%）が最も低くなりました。



また、パートナー（配偶者・恋人）がいる人（1,241名）に、パートナーとの関係について、来年は、今年よりどのくらい良くなると思うか聞いたところ、『良くなると思う』が38.4%と、『良くなると思わない』の9.2%を大きく上回りました。

性年代別にみると、『良くなると思う』と回答した人の割合は、こちらも20代男性（65.4%）が最も高く、50代男性（19.5%）が最も低くなりました。



注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、
合計しても100%とならない場合がございます。

また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

- ◆調査タイトル：くらしの総決算 2021
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
全国の20～79歳の男女
- ◆調査期間：2021年10月26日～10月28日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル
(有効回答から性別×年代区分が均等になるように抽出)

(内訳)	20代	30代	40代	50代	60代・70代
男性	200	200	200	200	200
女性	200	200	200	200	200

■■会社概要■■

会社名：プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
代表者名：代表取締役社長 兼 CEO 阪本 浩明
創業：2010年4月1日
本社所在地：東京都千代田区永田町 2-13-10
業務内容：生命保険業
(営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。